

2025年6月16日

学校法人三幸学園
広島医療秘書こども専門学校
校長 大原 隆 殿

学校関係者評価委員会
委員長 中野 陽介

学校関係者評価委員会実施報告

2024年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 西田 友洋（国家公務員共済組合連合会 呉共済病院 医事課課長）
- ② 西 美佳（広島こども保育園 園長）
- ③ 福山 彩夏（第12期 卒業生）
- ④ 中野 陽介（飛鳥未来高等学校 広島キャンパス 教務主任）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年6月16日（会場 広島医療秘書こども専門学校 303教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024年度 学校法人 三幸学園 広島医療秘書こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 藤田 高広

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 中野 陽介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョン、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え方続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【重点課題】

学校に行きたいと思える学校づくりをする。

【指導強化項目】

・「なぜ」を説明した動機付けの徹底／授業実践ガイドブックに沿った授業運営

【数値目標】

・退学率(5%、13/267人)

■結果

【重点課題】

・退学率の低減⇒○・精皆勤率の上昇⇒○

全体的な数値は昨対プラスに着地をしたが、欠時不良者や公欠補講者は増加する形となった。

【指導強化項目】

・授業や行事参加への動機づけや、欠席・遅刻者へのタイムリーな指導を行ったが、クラスによって欠時不良者や公欠補講者は依然として多くいる形になった。

・授業実践ガイドブックに沿った授業運営に関して、教職員全体で意識できるよう行うことはできた。

【数値結果】

・精皆勤率：医療秘書科 53.1(昨対+2.2)／保育科 57.8(昨対+15.8)／こども総合学科 57.0(昨対+4.4)

・退学率(2.97%、9/267人) ⇒医療秘書科の退学率が昨年度と比較して現象。全体として主な要因は学校生活不適応(目標喪失)である。今まで5,6月に集中していた退学がまんべんなく出るようになった。

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・現存の理念・目的・育成人材像などは明確に決められており、情報公開もなされている。
- ・社会経済のニーズや業界のニーズに向けた方向づけについては、医療事務分野においては IT 化も促進されていく中で、対応ができる人材をより多く輩出する必要がある。
- ・保育分野においてはこどもに関わる社会課題も多くあるため、長く働く保育士の養成をする必要がある。

② 今後の改善方策

- ・IT 化など、時代の変化に合わせて学校教育により必要なものを集めていかなければならない。
- ・病院、クリニック、園、施設などと情報共有を行い、業界の動向や求める人材像を正確に捉える。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価員会コメント

西田委員(医療秘書科について)

現場は人材不足であるため、新人育成が難しい。現場では、「即戦力」を求める。AIは使い方次第だと思う。色々なことに対応できる人材が良い。コミュニケーションスキルも必要である。何を言っているのか不明なままだと、双方向の会話にならない。コミュニケーションは全ての世代で能力として必要だと思う。

福山委員(医療秘書科について)

レジが自動精算になり、IT に頼る部分は頼っている。
学生時代に IT 知識は必要ないと思っていたが、もう少し知識を付けて現場へ行くことが出来れば良かった。

西委員(保育科について)

保育分野では、「一人一人が自分の主体性」を持っているか。チームとして、どんな分野が向いているか。自分で考える力が必要。一つ一つの業務がどんな風に繋がっているのか考えることが大切。

中野委員

今の時代は情報過多であり、SNSを通じて言葉を覚えている。
防ぎようのない現実ではあるが「やばい」という言葉一つでも意味が説明できれば良いと思う。
自分の考えていることが、伝わっているのか確認できるプログラムがあると良い。

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・様々なツール(Sankogate、Google Classroom、Teams 等)の活用はできているものの、業務効率化のために活用しきれてはいない。
- ・スケジュール管理の WEB 化を教職員全体で導入できておらず、全体のスケジュールの見える化が図れていない。

② 今後の改善方策

- ・教員間のクラス状況報告などを WEB アンケートとして入力できるようにするなど、タイムリーに入力、共有、集計ができるようにする。
- ・スケジュールを Outlook にて統一していくことを発信し、使い方についても有識者から伝えることで、早期浸透を図る。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

西委員(保育科について)

チームズ等は活用している。保育分野では「こどもん」というツールを使用している。

保護者がご自宅で園児の様子を入力することで、タイムリーに保育者が情報を把握することが可能。

福山委員(医療秘書科について)

勤怠は自分のスマホから入力を行っている。それ以外は特に実施をしていない。

西田委員(医療秘書科について)

当院では、管理職のみ iPhone を持っている。LINE ワークスというアプリを使用し、院内で連絡を取っている。

スケジュール管理などは、スマホで管理している人や紙媒体で管理している方もいる為、統一化は難しい。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施さ れているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われて いるか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位 置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマ ネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上 のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・新任講師に向けての最低限の研修会は行っているが、実際の授業のフォローワーク体制はまだ改善の余地がある。
- ・職員研修についてオンデマンド動画などを使用した効率の高いものが多いが、授業力の向上の為に授業を
見学、評価する体制は不十分である。

② 今後の改善方策

- ・新任講師に対しては定期的に授業シラバスの確認など、授業の方向性が間違っていないかを確認していく。
- ・授業見学を教員間で行い、改善策を考え、そして良い事例は取り入れられるような共有の場を作る。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

福山委員(医療秘書科について)

クリニックの研修体制は特に無い。上司に教えてもらいながら業務を行っている。

聞くのみでは分からぬ部分もあるため、実践を行ってから一人で業務を行えるようにしている。

西田委員(医療秘書科について)

病院によっては、キャリアラダーを作成して業務を行っている。

部署ごとで異なっているが、目の前の仕事は、教えて実践して人材教育を行っている。

西委員(保育科について)

保育では、キャリアアップを重視している。キャリアアップ研修と自治体の研修・法人研修があり、研修は沢山ある。園内でも研修を行っている。園内研修では、「考え方」研修を行っている。専門的な知識を得る場合は、外部研修で良い。外部の研修も「考えて動く」という研修に変わってきている。時代は変わってきたていると感じている。「保育観」は、考え合いながら研修を行っている。学校では、教員間で授業見学を行っているとお聞きしたが、見学が難しいこともあると思う。オンデマンドの動画形式にし、「言葉」と「動画」で伝え合うと良いのではないか。大事な部分の共通点を見つけることができる。

中野委員

1か月後、半年後、1年後を見据えて目標を立てて業務を行っている。

「自分を知る事」が大事。それぞれの長所、短所を受け止めることが大切。

どれだけインプットし、アウトプットできるかが大切である。

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・時期を問わず様々な時期で退学を検討する学生が増えており、対策が困難。
- ・通信制高校出身の在校生も増加し、高校とのギャップを埋めるための施策が不足している。

② 今後の改善方策

- ・先輩たちに悩み相談ができる場所(スタプロプラス)を設置し、退学検討前にストップをかけられるような体制を作る。
- ・勉強面での不安を抱える学生に向けての勉強会(スタプロプラス)の場を作り、授業への不安を取り除く場を定期的に設置する。
- ・姉妹校との連携を図り、通信制高校出身者の理解を深める。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

中野委員

現在の通信制高校は、生徒層が幅広くなっている。目的を持って通信制高校を選んでいる学生もいる。通信制高校では、週1回しか登校しない学生もいる。いきなり週5日通学は辛い部分もあると思うが、高校と専門学校のギャップは絶対にある。ギャップを埋める施策は、「今後の見通し」を付けることが大切。今後の見通しが立った時に学生達もパワーが出る。先を明確にすることで、学生も動きやすくなる為、高校とのギャップを埋めるには良いと思う。

金教務課長

長期間勤務している方の特徴など、仕事の捉え方等があればお聞きしたい。

西田委員(医療秘書科について)

理由を聞く前に退職する事が多いため、詳細が分からない。
 「石の上にも三年」が当たり前だったが、それが当たり前ではなくなっている。
 「生きるため」に働いている人が多い。
 退職しない理由は、変化を恐れて退職しない方や安泰を求めて退職しない方が多い。
 保育分野でも医療分野でも、今後をイメージ出来ていない学生が多いのではないか。
 クリニック、病院でも求められるレベルも違う。医療事務のイメージがどんな風についているのか。

以前、病院実習を行った際に「なぜ専門学校に入学したのか」を聞いたこともある。「なんとなく」と回答する学生もいた。何か目標がある学生は意欲的に取り組むことが多い。

西委員(保育科について)

保育分野では、「入職すること」が目的の人が退職傾向にあると思う。入職後より先のことを考えていない。日々の目標があれば、接点は持てる。その接点が無い人もいる。目標が無ければ、淡々と日々を送ることになる。目標が無い事が退職に繋がると考えている。保育は、人が相手の仕事である。長く勤務している人は、自分なりの「より良く」を考えて行動ができる。お互いに言い合える関係性は大事。

福山委員(医療秘書科について)

毎日、淡々と日々を過ごしている。今後のビジョン等は特に無い。

専門学校卒業後は、「就職したい」という気持ちが強かった。今は、週5勤務も大変。毎日同じことの繰り返しと感じてしまうこともあり、このまま継続しても良いのか悩むこともある。

専門学校在学中は、退学は考えたことなかった。「医療事務になりたい」という目標があつたため、2年間頑張ることができた。同じ目標に向かっていく仲間もあり、悩みを相談できる先生いた為、継続ができた。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・就職サポートに関しては、美容医療など新設学科コースの就職先や、保育関連の施設の就職先など、少数でもニーズのある就職先の確保が不十分。
- ・卒業生用のアプリやLINEを通して学校からの発信はしているものの、活用事例はなし。
- ・高校との連携は、こちらが発信するものとしてはなかなかできていない。

② 今後の改善方策

- ・積極的に就職先開拓を行い、学生のニーズに合った就職先を展開する。
- ・同窓会の場なども活用し、卒業生が気軽に学校へ相談できるようなつながりを作る。
- ・姉妹校をはじめ、高校との連携を強めるため、積極的な出張模擬授業などができる環境を作りたい。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

福山委員(医療秘書科について)

卒業生用アプリは使用していない。卒業生が会える機会があれば活用したい。

中野委員

昨年から引き続き、専門学校と連携している。連携することで「医療や保育に興味を持った」という高校生も増えている。色々な知識や経験をさせてあげたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・医療秘書科の学外実習施設の確保に苦戦している。

② 今後の改善方策

・現場に足を運び、関係構築に力を入れる。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

西田委員（医療秘書科について）

コロナをきっかけに実習受入れをしない医療機関が増えた。医療事務は派遣が増えている。現場も人材不足のため、教える時間が無い。希望に沿ってあげたいが、添えないことが多い。インターンシップは現場に負担を掛けることになる。余力があれば受け入れ可能だが、現場は限界なこともある。

事務職員だけの実習だけではなく、他職種とも関われる実習が一番良いと思う。他職種との触れ合いも大切である。

福山委員（医療秘書科について）

昨年度実習を受入れたが、何を教えたらいか分からぬ。医療機関によって「やり方」や「システム」も変わってくる。現場がどんな雰囲気なのか知れるため、現場実習はあつた方が良い。全体の流れや雰囲気は知つておいた方が良い。

西委員（保育科について）

実習生は「学ぼう」という姿勢でいるはず。学ぶ姿勢があれば、受け入れ側にも伝わってくる。中には、義務として実習に行く学生もいると思う。学生を「使うのか」「育てるのか」受入れ側が考えることが大切。可能であれば一緒に楽しめる経験があれば良い。実習に関しては、「育てる」という意識が必要なのではないか。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・大学を検討する学生が増え、医療事務を目指す学生も年々減少しており、魅力が伝えきれていない。
- ・保育については、業界の魅力を伝えられるよう、卒業生と連携するなどの策がまだ足りていない。

② 今後の改善方策

- ・医療事務の魅力について、卒業生から直接伝える機会をとる、もしくは仕事の種類の幅広さや、各仕事の魅力を伝えることで、志す学生の増加を図る。
- ・保育士、幼稚園教諭について実際に働いている現役の卒業生を呼び、高校生と話す機会を作る。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

福山委員（医療秘書科について）

オープンキャンパスで卒業生としてイベントに参加した際には、職業に対して、ネガティブなイメージが付かないように話をしている。話をする中で難しいと感じる部分もある。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・引き続き教職員へのコンプライアンスに対する理解に努める

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・医療秘書科についてはボランティア活動の支援はできていない。
- ・地域のこどもたちを対象とした「こどもんクラブ」を行っているが、頻度や内容に関してはまだ改善の余地がある。

② 今後の改善方策

- ・何か地域貢献できることや職業に繋がることがあれば機会提供を行いたい。
- ・アンケート結果をもとに、「こどもんクラブ」の内容・頻度について引き続き検討していく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

西田委員（医療秘書科について）

病院が主催する講座に参加するのも良い。開催する際に学生ボランティアが参加してくれると助かる。学生は土日にボランティア等に参加するのか等は疑問が残る。地域で開催するイベントに参加してもらうのは良い。医療事務は、「事務業務以外にも仕事がある」という事が学びに繋がると思う。

西委員（保育科について）

リゾート校も運動教室を行っていた。学生が主体で色んな遊びのメニューを考えていた。こどもんクラブは講師の先生が頑張っている。講師の先生方に力があるから子ども達も喜んでいる。学生はお手伝いになっているため、子ども達の体験メニューは学生が主体となって運営できると良い。リゾート校と比較すると違いがある。

中野委員

3年ほど特別支援学校に勤務していた経験がある。特別支援学校は教員数が足りていない。その際に学生ボランティアに来てもらった。現場的には凄く助かったため、そういうボランティアに参加するのも良いと思う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

沢山のご意見をいただき、専門学校として「やる事」が見えてきた。

聞いて終わりではなく、少しずつ、ひとつずつ改善をしていきたい。保育分野、医療分野の現場のお話を聞き、それぞれ地域貢献できるようにし、学校運営の部分に活かしていきたい。